

●●● 地域で育てよう健やかな子ども ●●● 青少対(青少年対策地区委員会)が活躍しています

青少対は、青少年の健やかな成長を願って活動する地域の自主的な団体で、昭和39年に中学校通学区を単位として設置されました。その後、昭和57年度からは、活動の充実を目指して、現在の小学校通学区を単位に再編され、さまざまな活動を続けてきました。地域に密着した青少対の取り組みや役割についてご紹介します。



青少対とは

「青少年対策〇〇小地区委員会」の略称で、現在、19の地区委員会が活動しています。

委員には、地区内の有志、自治会、商店会、子ども会、教職員、PTA関係者、民生委員児童委員、保護司、青少年委員など多くの方が選出されています。

また、活動に積極的に参加できる方ならどなたでも委員になれます。

青少年対策の内容は

青少年を取り巻く環境には、青少年の健全な成長・発達を妨げる要因があります。そうした青少年の健全な成長を妨げざるまま課題を解決するための活動

青少対の活動

を行っています。

青少対では、それぞれの地域の特徴を生かし、次の4つの特徴を踏まえて取り組みを行っています。

- ① 青少年の育成は大人ひとりひとりの責務である
- ② 絶えず家庭のあり方を振り返る
- ③ 地域が一体となって青少年の育成に取り組む
- ④ 地域の健全な人間関係づくり

そこで、青少対では主に次のような活動を行っています。

- ▽家庭の健全化を図る
- ▽社会環境の浄化を図る
- ▽学校・PTA・商店などが一体となった地域活動
- ▽体育・レクリエーションなどの奨励
- ▽青少年の非行および事故

小平市青少年対策地区委員会代表者協議会会長 (青少年対策七小地区委員会会長) 宮崎庄一さん(大沼町在住)



青少対にかかわるきっかけは、16年前どんどこ焼きに初めて参加し、お団子をみんなで食べたことが始まりでした。子どもたちを交えたこんな行事もあるのかと感心しました。

最近是人と人のかかわりが少なくなり、親が子どもに対して無関心な傾向がみられます。大人が子どもたちに関心をもって接し、家庭で親子でもっと話し合うことが必要でしょう。

青少対でも、子どもたちの父親代わり、母親代わりをしていくことが大切で、人と人のかかわりづくりも行っていきます。子どもたちの夢を育て、何かでキラリと光る人間になれるよう、地域の皆さんそれぞれの立場で、青少年が健やかに育つよう、積極的に参加してほしいと思います。

私が会長を務める七小地区の特徴的な行事は、ふれあいコンサートです。七小、六中、錦城高校の3校合同の演奏会で、今年で18年目を迎えます。時には高校生が小・中学生の練習の指導をしてくれるなど、交流の輪が広がっています。より多くの方がさまざまな地域活動にかかわることが、青少年の健全育成に大きな力となります。心の温かい地域づくり、人々がお互いに助け合う心の通う社会を目指し、21世紀を背負う子どもたちが、小平に住んで良かったと印象に残るように、これからも青少対活動に皆さんのご支援・ご指導をよろしくお願いたします。



参加している
児童の声
日ごろの練習の成果をルネこだいらで発表でき、たくさんの人たちに声援をもらって、とてもうれしかったです。中学生、高校生の皆さんお姉さんのような演奏ができるよう、毎日毎日これからも練習していきます。

10月以降の主な事業内容(平成15年度)

地区名	内容
一小地区	ファミリー運動会(10月)、もちつき大会(12月)
二小地区	スポーツ大会(10月)、高齢者交流室ボランティア(毎週)
三小地区	青少対まつり(10月)、もちつき大会(2月)
四小地区	青少対まつり(11月)、もちつき大会(1月)
五小地区	クリーン作戦(12月)、声かけパトロール(12月)
六小地区	ほほえみコンサート(12月)、地域交流会(1月)
七小地区	ふれあいコンサート(10月)、青少対まつり&ミニ運動会(12月)
八小地区	みんなの音楽会(10月)、ウォークラリーとどん汁会(2月)
九小地区	子どもまつり(10月)、花いっぱい運動(12月)
十小地区	青少対まつり(11月)、もちつき・まゆ玉作り(1月)
十一小地区	秋まつり(11月)、クリーン作戦(11月)
十二小地区	青少対のつどい(10月)、けやきの郷まつり(11月)
十三小地区	青少対まつり(10月)、二中ブロック綱引き大会(2月)
十四小地区	トライ&チャレンジ祭(11月)、ふれあい&ぬくもりコンサート(2月)
十五小地区	青少対まつり(11月)、もちつき大会(1月)
花小金井小地区	秋のコンサート(10月)、どんどこ焼き(1月)
鈴木小地区	クリーン作戦(11月)、もちつき大会(1月)
学園東小地区	すこやかトライ&チャレンジ祭(11月)、もちつき大会(12月)
上宿小地区	上宿まつり(11月)、もちつき大会(1月)

青少年対策十二小地区委員会会長

本間雪衣さん(小川町在住)



子どもの小学校入学とともに青少対活動を知り、地域とのかかわりが始まりました。下の子どももいっしょのときは、みんなから声をかけられ、行事に参加することで、地域の方と親しくできるようになりました。

十二小地区の特徴としては、近くに大学や高校、施設などがあり、さまざまな世代間交流や国際色が豊かなことです。歌や踊りを披露していただいたり、行事の際に手作り作品などの展示をお互いに行ったりしています。また、「土曜日の遊び場」では、工作や風船でいろいろなものを作ったり、とても人気があります。これからの内容選びがたいへんです。

行事によって、参加者が増減する場合がありますが、子どもはもちろん、大人たちもさらに参加できるように、みんなで工夫をしています。

今後は、子どもたちの自立的な活動を少しずつ取り入れ、企画の段階から体験してほしいと思っています。

青少対活動の運営に携わり、みんなで支え合っていくことで、人の輪が大切で、基本なんだと実感しましたし、子どもたちにも伝えていきたいと思っています。地域の人々がかかわりあうことで、いろいろなことが学べます。



参加している
児童の声
青少対まつりでは、クッキーなどを自分たちで作ったり、みんなで売ったりしました。また、ウエイトレスをしたりととても楽しかったです。

青少年対策十一小地区委員会会長

島田進さん(花小金井在住)



10年くらい前に、「ちょっと手伝ってくれないか」との誘いがあり、かかわったことが青少対との出会いでした。それまでは、地域とのかかわりは少なかったのですが、参加してみたら結構楽しかったので、今でも活動を続けています。

十一小地区の特徴は、子どもだけでなく、親子でも参加人数が非常に多いことでしょう。クリーン作戦(地域清掃)では、親子で約500人の参加があります。継続したボランティア活動の成果でしょうか、近年では以前に比べてごみの量も4分の1くらいに減ってきています。

また、子どもキャンプでは135人の参加があり、テント張りからはんごう炊飯まで、みんなで何でも行いました。学校の校庭を使うことで、費用もかからず身近に体験できます。火や包丁を使うときなどは厳しく指導し、集団生活の大切さを学んでほしいと思っています。

青少対に長年携わったおかげで、地域とのつながりも広がってきました。今後も、青少対活動では、子どもたちの生活指導も含めて行っていきますが、子どもも大人もみんな楽しく、仲良く活動できるように心掛けていきます。

参加している
児童の声
▽テントで寝るのは初めてだったので、寝つけなかったけど、楽しかった。
▽いろいろなことが体験でき、いろいろな人と友達になれた。
▽準備してくれた大人や、中学生に感謝したい。

